

春に

校長 武井 正明

昨日春分の日、親父と妻と3人でおふくろのお墓参りに行った。

角田の麓、丘から見ると栗ヶ岳や守門山が見える。いつのまにか霞がかかった春の風が、柔らかく吹いている。

この景色を見ながら、天国のおふくろは何を考えているのだろう…。

耳が遠い父に、自分が明確に伝えなかったために出発が1時間遅れた。

高速道路で巻のお寺に向かう。私が墓参するのは、卒業式翌日以来だ。

私が墓参する時は決まっている。人知れず苦しい時と節目の時だ。生きている時は取り留めのない話ばかりだったが、墓の前だと何でも話せる。先日も、吉中生のおかげで母に、いい報告ができた。

そしてお墓に向かうと、実家のご近所ご家族と偶然再会した。

昨年秋、お世話になったお父様が84で亡くなったと聞いた。夫婦げんかすると奥さんに黙って突然家に来たこともある、愉快で優しいおじさんだった。時を経て、今またおじさんとおふくろはご近所さんとなっているわけだ。

示し合わせたわけでもないのに、お盆の時も墓参のタイミングが合った。今回も、末娘のかおりちゃんが寝坊して遅れたという。いろんなことが重なって、また逢えた。きっとふたりが、うまく引き合わせてくれたのだろう。

ひとしきり子どもの頃の昔話に花が咲いた。現在吉中学区に在住で、私が吉中の校長だと最近知った私の一個上のご長女が、学校だよりを読んでくれていること、次女のみーちゃんも、吉中HPを現在暮らす神戸で読んでくれていることを知った。寺尾の実家は既にないが、まだ繋がっていたことが本当にありがたく、嬉しい…。

つくづく人生とは人との繋がりだ。これからの人生も、縁を大事に、より豊かなものにしていきたい。

吉中生の皆さん、まだ始まったばかりの春休み、いかがお過ごしですか？

やっぱりこの時期、うかんでくる歌は谷川俊太郎の、あれだな。

♪よろこびだ しかしかなしみでもある いらだちだ しかもやすらぎがある
あこがれだ そしていかりが かくれている
心のダムに せきとめられ よどみ 渦まき せめぎあい いま あふれようとする

春はそんな矛盾した、不安と希望の季節。みんな、そこを越えて大人になってきた。そんな新芽のあなたも、そうやって成長していくのですよ。